不登校児童・生徒支援事例報告書

不登校の未然防止・教室復帰に向けた取組について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、小学校から不登校の状態であり、中学校でも登校できない状態が継続している。不登校の要因は「無気力・不安」である。

当該生徒の登校意欲を喚起するために、不登校対応加配教員が中心となって校内別室の活用等、個々の状況に応じた対応を充実させている。

具体的な取組

週に１回行われる特別支援・教育相談校内委員会で、不登校対応加配教員が当該生徒の状況や他の不登校傾向のある生徒の登校状況を、学年教員、スクールカウンセラー、校内別室指導支援員と情報共有している。

また、会議の記録を回覧し、全教員が共通理解をもつようにしている。

都や区の担当者連絡会等を通して学んだ取組や実践事例等を、校内の特別支援・教育相談校内委員会にて不登校対応加配教員から共有している。

また、担当者連絡会では、本校の事例や不登校生徒への初期対応に関して、他校と共有している。

校内別室での支援に、不登校対応加配教員が積極的に関わり、校内別室指導支援員や学年教員と当該生徒とのコミュニケーションの充実を図っている。

職員室内の大型モニターに、学校連絡・情報共有サービスの欠席者情報を投影することで、毎朝全教員が欠席者を把握できるようにしている。

また、校内別室を利用する生徒の利用時間をホワイトボードにまとめ、職員室内に掲示することで、１週間の利用時間を、全教員が把握できるようにしている。

成果

小学校から不登校の状態が続いていた当該生徒は、校内別室での支援により、学級以外に居場所をつくり、徐々に安定して登校ができるようになった。昨年度小学校では 100 日以上の欠席をしていたが、今年度は、60 日の欠席に留まっている。

課題

小学校からの不登校が継続しているケースについて、家庭や関係機関との連携を一層充実させる必要がある。

不登校児童・生徒支援事例報告書

不登校対応加配教員を中心とした不登校対策について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、中学校３年生で不登校状態になった。不登校の要因は、複合しているが、対人関係や学習への不安感を抱えていることが挙げられる。

当該生徒の状況に応じた支援に関して、不登校対応加配教員が校内の調整や組織的な対応力の向上を目標に行っている。

具体的な取組

○実態把握

年２回のクラスづくりに関する調査結果を基に、クラスの実態や、個々の生徒の状況を分析し、声かけ、二者面談、関係機関への相談などの支援につなげている。

○授業のユニバーサルデザイン化

学習への不安から不登校状態になることを未然に防ぐことを目的に、授業のユニバーサルデザイン化を進めている。ユニバーサルデザインの理解増進のため、不登校対応加配教員は、研究主任と連携し、校内研修の企画や、マニュアル作成など、組織的に授業改善に取り組んでいる。

1．分かりやすい授業

2．柔軟性のある授業（個に応じた指導）

3．協働的な学びの充実

○諸機関との連携

学校外の支援機関や校内別室と連携し、自分のペースで登校できる環境を整備した。

また、保護者とスクールカウンセラーとをつなぎカウンセリングなどを行うなど、保護者の支援にも取り組んでいる。

○不登校対策フローチャート

不登校への対策のために、マニュアルを作成し、どの教員でも、当該生徒等への対応に困ることなく、円滑に支援が行えるように仕組みを整えている。

成果

学校内外の支援につながっていなかった当該生徒を、不登校対応加配教員が中心となって校内別室を紹介し学校につなげることができた。また、組織的な支援によって登校不安を解消し、徐々に登校状況が改善している。

課題

不登校対応加配教員を中心に、引き続き学校全体の不登校出現率の抑制に取り組んでいく組織作りが必要である。

不登校児童・生徒支援事例報告書

校内別室と職員室の連携について

不登校児童・生徒の状況

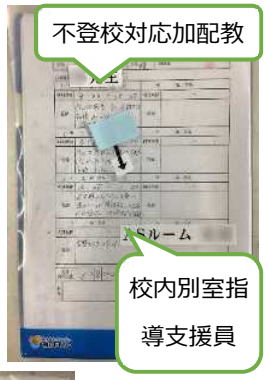
当該生徒は、中学入学後に友人とのトラブルをきっかけにして登校に不安を感じ、欠席が目立つようになった。

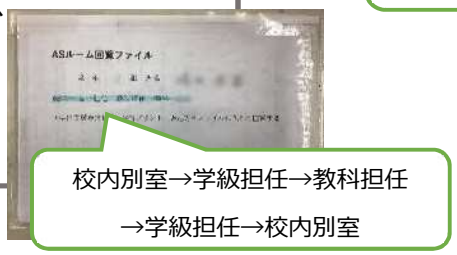
校内別室への通室支援につなげ、生徒の状況に合わせたスモールステップで教室復帰を目標に、学級担任や教室とのつながりが途切れないように意識して支援に当たっている。

具体的な取組

校内別室に登校した生徒の活動日誌と、その日に取り組んだプリントやワーク等をファイルに入れて学級担任と教科担任が確認している。

また、校内別室指導支援員と不登校対応加配教員で校内別室の利用状況と活動の様子を日誌で確認し、生徒の変化や気付きを学級担任や教科担任と共有している。





不登校対応加配教員が校内別室に積極的に顔を出し、教員とのつながりを切らさないことを意識している。学級担任や学年教員にも、短時間でも校内別室に顔を出すように働き掛けている。

週１回の特別支援教育会議で生徒の情報を特別支援教育コーディネーターや校内別室指導支援員とともに共有し、生徒の状況を踏まえて校内別室での支援の充実を図っている。

不登校対応加配教員が参加する研修や連絡会で、各自治体や各校の教育センターについて意見交換や情報共有を行い、その内容を校内で共有している。

成果

校内別室での支援により、当該生徒は教員とのつながりを実感し、課題への取組や授業への参加を前向きに考えられるようになった。

不登校対応加配教員が中心となって組織的な不登校生徒への対応が充実した。

課題

不登校生徒と教員の橋渡し役として、生徒、家庭、教員が同じ思いをもってよい方向に進んでいけるよう、今後も支援を充実させていく必要がある。